

浅川扇状地遺跡群

駒沢新町遺跡（4）

—(仮称)エステイスト上駒沢宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2023年2月

長野市教育委員会



調査地遠景（北東から）



調査区全景（真上から 上が東）

序

彩り豊かな山並みを仰ぎ、千曲川・犀川の大河に抱かれた長野市では、悠久の歴史の中で、多様な人々の生活が営まれてきました。各地に残る伝統行事や歴史的建造物などの文化財は、郷土の成り立ちや文化を理解する上で欠くことのできないものです。中でも土地に埋蔵されている遺跡やそこに存在する遺構・遺物は、私たちの祖先の知恵と文化の集積であるとともに、当時の人々の暮らしぶりを現在に伝えてくれる貴重な財産です。

ここに長野市の埋蔵文化財第169集として刊行いたします本書は、宅地造成工事に伴って実施した、浅川扇状地遺跡群に属する駒沢新町遺跡に関する調査報告書であります。

発掘調査では、古墳時代前期の溝跡や土坑、平安時代の土坑を検出し、この地域の遺跡の広がりを知ることとなりました。

この調査結果が地域の歴史解明の一助として、そして文化財保護に広くご活用いただければ幸いであります。

最後に、埋蔵文化財保護に対する深いご理解のもと、この調査にご協力をいただいた事業者並びに地域の皆様、また、発掘作業に携わっていただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。

令和5年2月

長野市教育委員会
教育長 丸山 陽一

例　言

- 1 本書は、長野県長野市上駒沢における「(仮称) エステイスト上駒沢宅地造成工事」に伴い実施された埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査の実施については、事業主体者である株式会社エステイスト 代表取締役 勝野和博からの委託により、長野市長 萩原健司が受託し、長野市教育委員会（担当：埋蔵文化財センター）が直営事業として実施した。
- 3 発掘調査地は、長野県長野市大字上駒沢字新町 353 外に位置する。開発事業面積のうち埋蔵文化財の保護対象面積は 1,714.51m²、調査対象面積は約 310m²である。なお、実質発掘調査面積は 212m²である。
- 4 発掘調査は令和 4 年 6 月 2 日から 6 月 17 日にかけて実施した。
- 5 現場における発掘調査は鈴木が担当し、各調査員がこれを補佐した。また本書の編集は飯島の指導の下鈴木が担当し、埋蔵文化財センター各職員がこれを補佐した。なお、執筆は鈴木が担当した。
- 6 調査によって得られた諸資料は、長野市教育委員会埋蔵文化財センターで保管している。なお、出土遺物の注記号は、アルファベットで「AKA 4」と表記してある。
- 7 これまで遺跡名の「新町」を「 shinmachi」とするふりがながあったが、旧上駒沢村の字名である「あらまち」とした。
- 8 発掘調査の実施に際し、委託者である株式会社エステイストにおかれでは、埋蔵文化財に対して深いご理解をいただき、絶大なご協力を賜った。

凡　例

本書では、調査によって確認された遺構・遺物について、その基本的資料を提示することに主眼を置いた。資料掲載の要領は下記のとおりである。

- 1 本調査において確認した遺構・遺物について、そのすべての資料化は果たせなかつたため、本書に掲載していない。しかしできうるかぎり追認できるよう、基礎データはそのまま保管してある。
- 2 地図等に記載した方位は真北、また遺構図等に掲載した方位は、全て座標北を表している。
- 3 基準点測量および遺構測量は、平面直角座標系（国家座標）の第VII系（東経 $138^{\circ}30'00''$ 、北緯 $36^{\circ}00'00''$ ）の座標値（日本測地系 2011）と日本水準原点の標高を基準とし、株式会社写真測図研究所の開発した遺跡調査支援システム「A.T.S」のうち、光波測距儀を用いた「コーディック・システム」を援用するため同所に委託した。
- 4 遺構図は、調査区全体図を 1/200、遺構実測図を 1/40 の縮尺に統一してある。
- 5 遺構の略記号は以下の通りである。
溝跡：S D 土坑：S K 小穴：S P
- 6 遺物は原寸にて実測図を作成し、掲載した実測図は 1/4 の縮尺に統一してある。
- 7 遺物実測図において、トーンの凡例は以下の通りである。
 赤色塗彩  黒色処理
- 8 掲載した遺物写真的縮尺は任意である。
- 9 本書の土層の色調記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』によるものである。

目 次

卷頭図版

序

例 言

凡 例

目 次

第1章 調査経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	3
第3節 調査経過（調査日誌抄）	3
第2章 調査地周辺の環境	
第1節 遺跡の立地	4
第2節 上駒沢地区の既往調査	4

第3章 調査成果

第1節 試掘調査	6
第2節 調査の概要	7
第3節 遺構と遺物	10
第4章 まとめ	14
抄 錄	
奥 付	

挿図目次

図1 調査地位置図（広域地図 1/50,000）	1
図2 調査地位置図（狭域地図 1/2,500）	2
図3 上駒沢地区の既往調査地位置図 (1/10,000)	5
図4 試掘調査位置図（1/1,000）	6
図5 試掘調査土層柱状図（1/20）	6

図6 保護対象範囲及び調査区（1/1,000）	7
図7 調査区全体図（1/200）	8
図8 調査区東壁断面図（1/80）	9
図9 遺構実測図	12
図10 遺物実測図	13

表目次

表1 遺構一覧表	11
表2 遺物観察表	11

写真図版目次

遺構写真図版 1	15
遺構写真図版 2	16
遺物写真図版	17

第1章 調査経過

第1節 調査に至る経緯

当該開発行為に関する埋蔵文化財の事務手続きの始まりは、事業主体者である株式会社エスティスト（以下、事業主体者）からの照会があった令和3年9月6日に遡る。担当者から事前相談を受け、当該地が「周知の埋蔵文化財包蔵地」である浅川扇状地遺跡群の範囲内にあることから、文化財保護法第93条の規定に基づく届出が必要であること、また試掘調査の実施を含む保護措置が必要となる旨を回答した。

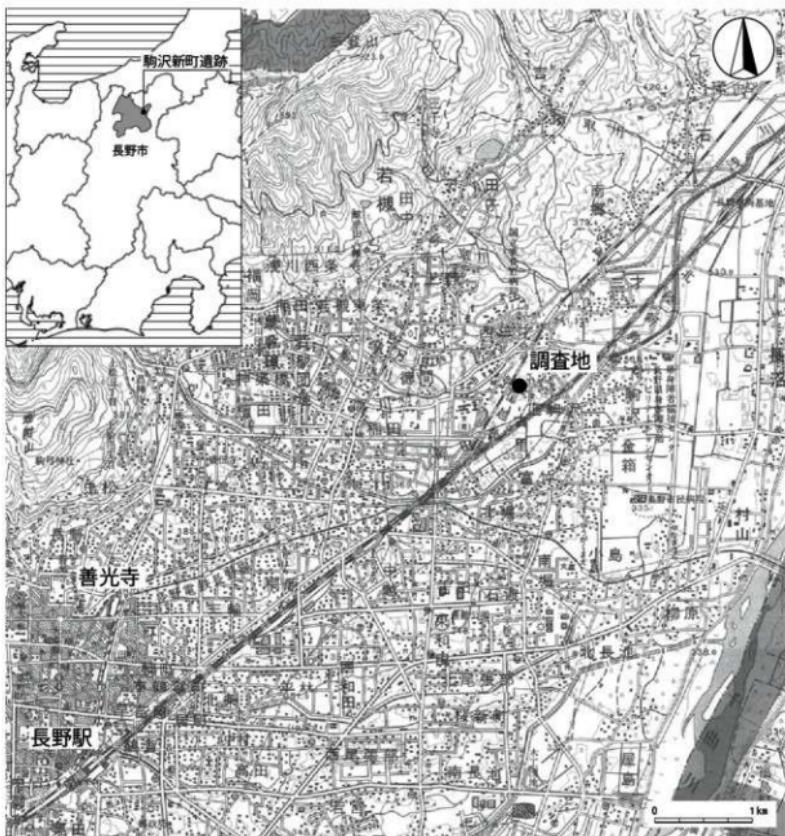


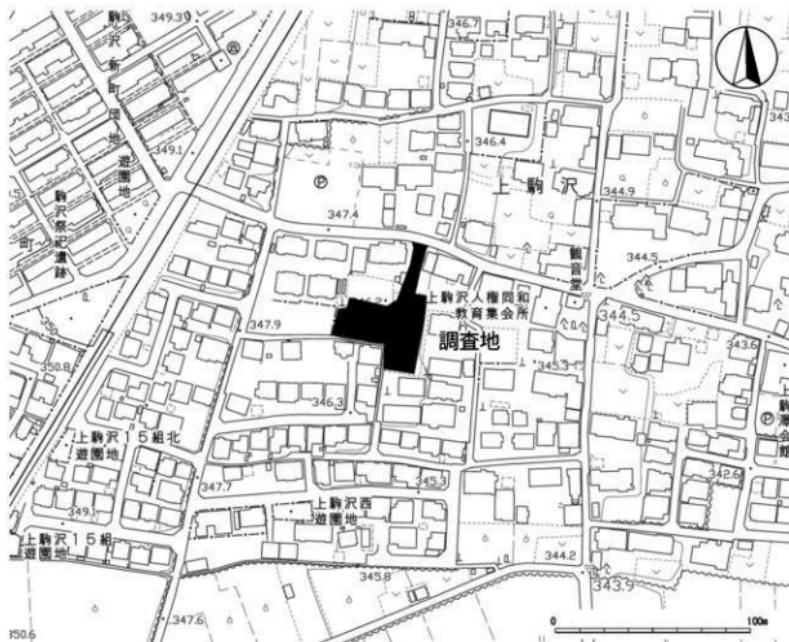
図1 調査位置図（広域地図 1/50,000）

令和3年9月30日に事業主体者より、文化財保護法第93条第1項の規定に基づく「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書」の提出があり、同年10月8日付3埋第2-240号にて長野市教育委員会教育長から「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」の通知を行い、保護措置として「発掘調査（試掘調査）」を指示している。同年9月30日付で「試掘調査依頼書」及び「土地所有者の承諾書」の提出があり、同年10月25日に試掘調査を行った。その結果、良好な埋蔵文化財の包蔵が認められ、同年11月1日付3埋第5-19号にて報告した。その後協議の結果、開発区域の全区域1,714.51m²を保護対象とし、うち埋蔵文化財に影響のある範囲約310m²を発掘調査対象として記録保存を目的とした発掘調査を行うことになった。

令和4年4月7日付で事業主体者から「発掘調査依頼書」が提出され、それを受理し、同月11日付けで事業主体者との間で「埋蔵文化財の保護に関する協定書」及び「埋蔵文化財発掘調査委託契約」を締結した。

現地における発掘作業は、同年6月2日より6月17日までを行い、実質調査日数は16日間である。調査終了後、長野県教育委員会教育長宛に同年6月23日付4埋第72号で「発掘調査終了報告書」を、委託者宛には同日付4埋第71号にて「発掘調査現場作業の終了及び引渡しについて（通知）」を、長野中央警察署長宛には同日付4埋第73号にて「埋蔵文化財の発見について（通知）」を提出している。

その後、整理作業を実施し、令和5年2月本報告書の発行に至る。



第2節 調査体制

本調査は、長野市教育委員会の直轄事業として、文化財課埋蔵文化財センターが実施した。その組織は以下の通りである。

調査主体者	長野市教育委員会	教育長	丸山陽一
統括責任者	長野市教育委員会	教育次長	樋口圭一
統括管理者	長野市教育委員会文化財課	課長	前島 卓
調査責任者	長野市教育委員会文化財課埋蔵文化財センター	局主幹兼所長	大井久幸
調査担当者	長野市教育委員会（埋蔵文化財センター担当）	課長補佐	飯島哲也 課長補佐 風間栄一
調査機関	埋蔵文化財センター		
	庶務担当 事務職員	宮本博夫、平林満美子	
	調査担当 主 事	小林和子、鹿田斐之	
	研究員	田中曉穂、清水竜太、井出靖夫、千野 浩、青木一男 鈴木時夫（主任調査員）	
発掘調査員	向山純子		
発掘補助員	後藤大地		
発掘作業員	大谷盛孝、岡沢貴子、杉本千代、中村泰明、峯山真由美、宮尾弘子、宮本正守 向山 久、渡邉由美		
整理調査員	青木善子、市川ちず子、鳥羽徳子、半田純子		
整理作業員	飯島早苗、清水さゆり、西尾千枝、待井かおる、三好明子、宮島恵子		
遺構測量委託	株式会社写真測図研究所		
機材等提供	株式会社エスティスト		

第3節 調査経過（調査日誌抄）

6月2日（木） 重機による表土除去作業開始。

（～6月7日）

6月3日（金） 作業員雇用開始。遺構検出開始。

（～6月10日）

6月6日（月） 降雨により作業休止。

6月8日（水） 遺構掘り下げ開始。

6月9日（木） 東壁断面図作成。

6月10日（金） 遺構断面図作成。

6月14日（火） 空撮。作業員雇用終了。

6月16日（木） 遺構測量。

6月17日（金） 図面結線。機材撤収。

発掘作業終了。



発掘作業風景

第2章 調査地周辺の環境

第1節 遺跡の立地

駒沢新町遺跡は長野市北東部の上駒沢地区に所在する。本遺跡は飯縄山に水源を持つ浅川と駒沢川によって形成された複合扇状地の扇端部に位置し、湧水地帯にあたる。北には駒沢川、南には新田川が流れ、東側でそれらの川が浅川に合流する。

本調査地はしなの鉄道三才駅から南 700 m に位置する。上駒沢地区を東西に横断する道路沿いにある。周辺は近年急速に宅地化が進んでいるが、その中で残された畠地が今回の調査地である。

第2節 上駒沢地区の既往調査

駒沢新町遺跡は、浅川や駒沢川によって形成された扇状地上に位置している。これらの川の氾濫を幾度も被ってきたことが影響して集落の広がりや地形の変化の把握が比較的困難な地帯といえる。

上駒沢地区ではこれまでの調査で、弥生時代から中世までの遺構・遺物が見つかっている。なかでもこの地域最大の発見は調査区西側の駒沢祭祀遺跡である。古墳時代中期から後期にかけて水にまつわる農耕祭祀が行われた場所である。また地区東側には、駒沢城跡があり、中世の堀跡・土坑・小穴が確認され、中世段階の居住域の広がりが明らかになっている。

これまで上駒沢地区では本調査区のほか、計 9ヶ所で発掘調査が行われている。以下、その概要について述べる。それぞれの参考文献に関しては第4章にある。

1 駒沢祭祀遺跡（笹沢浩 1982・前島卓 2003）

昭和 41 年度に発掘調査を実施した。古墳時代中期の祭祀遺構 4 基、後期の祭祀遺構 1 基などが検出されている。なかでも最大規模の 1 号祭祀遺構は長径 4.2 m、短径 3.0 m の方形を呈し、土坑内からは総数 500 個体以上の土師器と白玉 900 個のほかに勾玉、剣形模造品などの滑石製品が出土している。古墳時代に軌り行われた村落共同体の水に関わる農耕祭祀跡で、現在市指定史跡であり、史跡公園として保存・活用されている。

2 駒沢新町遺跡－さつきヶ丘団地造成地点－（長野市教育委員会・長野市遺跡調査会 1981）

昭和 43 年度に駒沢新町遺跡調査会により発掘調査を実施した。竪穴住居跡 10 軒、特殊遺構、溝跡、道状遺構などが検出されている。なかでも特筆するのは特殊遺構から懸仏鑄型が出土し、工房跡と推測される。

3 上駒沢遺跡（長野市教育委員会・長野市遺跡調査会 1984・1985）

昭和 58・59 年度に発掘調査を実施した。圃場整備事業に先立ち、トレンチ調査が行われ、弥生時代の土器群が出土している。圃場整備対象地内の標高 344 m 付近に地形の変換点があり、それより高い地点は居住域の可能性があり、低い位置は低湿地帯であることが推測される。

4 駒沢新町遺跡－長野電鉄上駒沢住宅地点－（長野市教育委員会 1993）

平成 5 年度に約 400m² の発掘調査を実施した。奈良時代の竪穴住居跡 1 軒、平安時代の竪穴住居跡 3 軒、溝跡 2 条、土坑 9 基が検出されている。駒沢新町遺跡の南東端付近の様相を呈しているものと想定される。

5 駒沢城跡－北陸新幹線地点－（長野県教育委員会 1998）

平成 6・7 年度に長野県埋蔵文化財センターにより発掘調査が実施された。駒沢城跡の堀 2 条とともに、平安時代後期から近世の竪穴状遺構、掘立柱建物跡、溝跡、井戸、土坑、柵列などが検出されている。

6 駒沢城跡－古里公園地点－（長野市教育委員会 2011）

平成 6 年度に約 300m² の発掘調査を実施した。駒沢城跡の堀 1 条とともに溝跡、土坑、土坑墓などが確認されている。

7 駒沢城跡－西友古里店地点－（長野市教育委員会 1996）

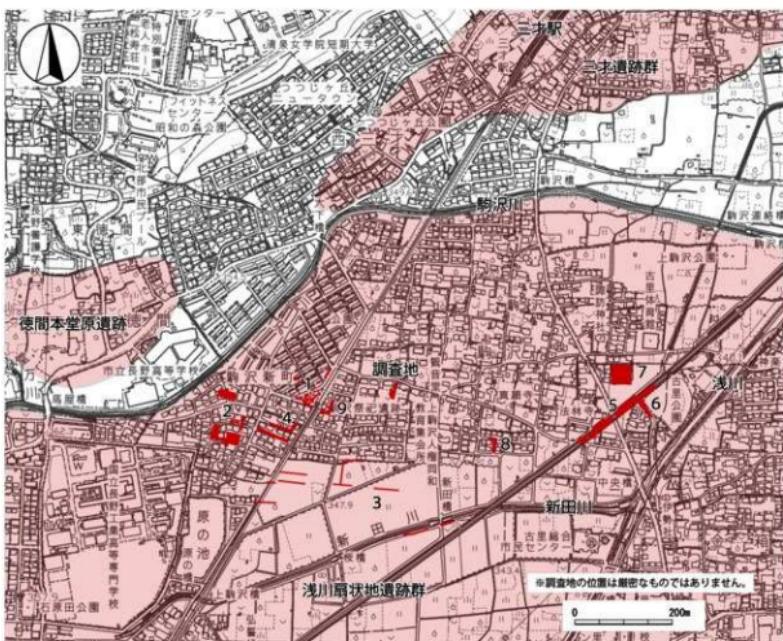
平成 6 年度に 1,400m² の発掘調査を実施した。3 面の遺構面を確認した。1 次面では中世の駒沢城跡の堀 1 条とともに溝跡、土坑、火葬施設、土坑墓、柵列が検出されている。2 次面では平安時代の竪穴住居跡 2 軒、掘立柱建物跡 2 棟、溝跡などが検出されている。3 次面では古墳時代の溝跡や弥生時代の土器が確認されており、上駒沢地区の遺跡の出現時期を考える上で重要な所見を得た。

8 上長畠遺跡（長野市教育委員会 2005）

平成 16 年度に約 200m² の発掘調査を実施した。中世の溝跡、土坑などが検出されている。これらは農業生産に関する施設であった可能性が想定されている。

9 駒沢新町遺跡－中央地区駒沢団地地点－（長野市教育委員会 2010）

平成 20 年度に約 300m² の発掘調査を実施した。奈良時代末期の住居跡 1 軒、平安時代末期から中世の土坑 1 基、した中世以降と想定される溝跡や柱穴群が検出されている。



1 駒沢祭祀遺構 2 駒沢新町道路－さつきヶ丘団地造成地点－ 3 上駒沢遺跡 4 駒沢新町道路－長野電鉄上駒沢住宅地点－

5 駒沢城跡－北陸新幹線地点－ 6 駒沢城跡－古里公園地点－ 7 駒沢城跡－西友古里店地点－ 8 上長畠遺跡

9 駒沢新町道路－中央地区駒沢団地地点－

図 3 上駒沢地区の既往調査地位置図 (1/10,000)

第3章 調査成果

第1節 試掘調査

開発事業予定地は浅川扇状地遺跡群に属し、範囲未詳として長野市遺跡一覧表に登録されている駒沢新町遺跡に該当する。開発事業予定地は埋蔵文化財包蔵の可能性が高いことから、令和3年10月25日に試掘調査を実施した。

試掘調査では、開発事業予定地内のうち、開発道路部分の任意の地点に試掘坑（トレンチ）を掘削して、坑内の土層観察から遺物包含層の有無および深度を観察した。試掘坑は2ヶ所設定した（図4）。

試掘調査により、第1トレンチでは地表下75cmで土器片を含む黒色粘質土、第2トレンチでは地表下110cmで土器片を含む黒褐色粘質土、地表下125cmで黒色粘質土を遺物包含層とした（図5）。

以上の結果から、開発事業予定地において良好な遺物包含層が確認され、埋蔵文化財包蔵の可能性が高いとの知見を得た。

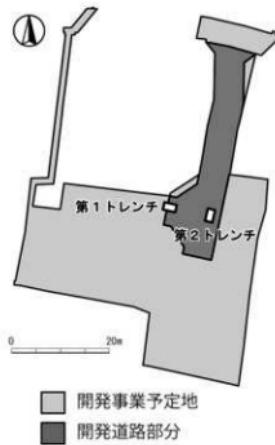


図4 試掘調査位置図（1/1,000）

第1トレンチ北壁



第2トレンチ東壁



図5 試掘調査土層柱状図（1/20）

第2節 調査の概要

今回の調査では、開発事業予定地のうち開発道路部分 310m²を発掘調査対象とした。そのうち調査区北側既存住宅の駐車場と車両の出入り部分は除外し、さらに調査時に調査区を東西に横断する幅 5.6 m の流路状の搅乱の一部を安全確保のために調査範囲から除外したため実質発掘調査範囲は 212m²である（図 6）。

重機による表土掘削は調査区北側から行った。調査区東壁の土層堆積状況を基本層序として図 8 のように把握し、3 層および 8・9 層を遺物包含層と判断した。層内に含まれる遺物から、3 層が平安時代の遺物包含層、8・9 層が古墳時代前期の遺物包含層と考えられる。なお、重機掘削時に 3 層の存在を認識することが遅れ、当初搅乱として認識していた SK 1 は 8 層上面まで、他の遺構のない場所は 10 層上面まで掘削した。調査区東壁にある 3 層落ち込みは土坑の可能性が考えられ、確認できなかった遺構がある可能性を付記しておく。10 層上面の検出面（古墳時代）では図 7 の等高線が示すように、南西から北東方向に傾斜していることを確認した。調査区北側では安全確保のため検出後、すぐに一部埋め戻しを行い、地形測量することができなかった。なお、検出面上の高さでは湧水があったため、ポンプによる排水しながら調査を行った。

調査区全体で検出した遺構は、古墳時代前期の溝跡 1 条、土坑 2 基、小穴 5 基と平安時代の土坑 1 基である。すべての遺構は調査区南半にあり、北半では遺構および遺物が全く見つかなかった。なお北半にある流路状の搅乱は出土遺物から近代以降に埋め戻された溝跡と考えられ、検出面より深く掘り込まれていた。この部分の遺構等の有無は不明である。

出土した遺物は古墳時代前期と平安時代の土器であり、総量は 1,854.1g を量る。



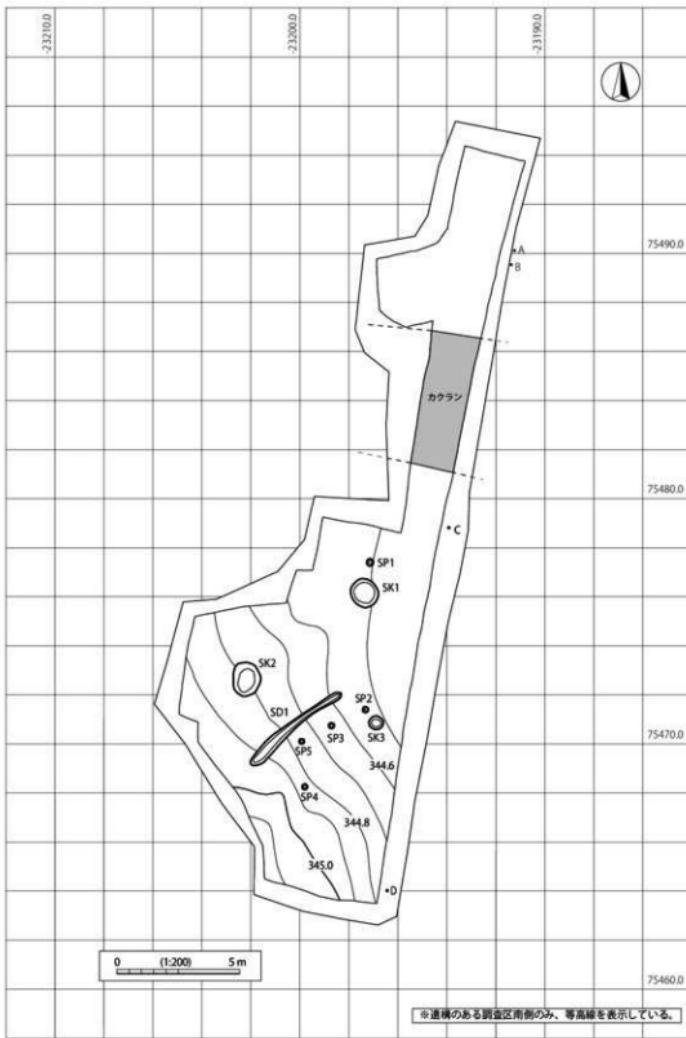


図7 調査区全体図 (1/200)

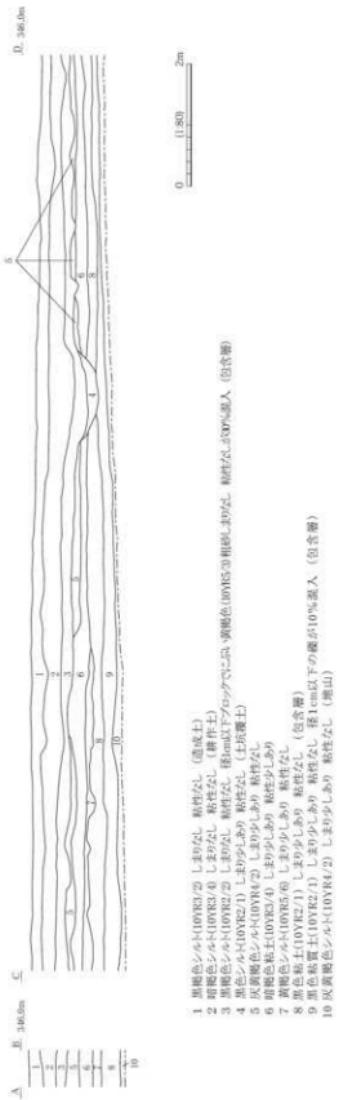


図8 調査区東壁断面図 (1/80)

第3節 遺構と遺物

調査で検出した遺構は基本情報を一覧表（表1）にまとめ、すべて遺構実測図に提示した。

出土した遺物は土器のみである。土器は種類ごとに分類したのち遺物の口縁、底部あるいは器種の特定が可能な部分が残存する個体を抽出し、このうち10点について図化した。なお、掲載した遺物には通し番号を付し、観察所見を観察表（表2）にまとめた。以下、遺構ごとに詳細を述べる。

1 溝跡

【S D 1】

調査区南に位置する。等高線に直交して、南西—北東方向に直線的に掘り込まれた溝である。規模は全長4.66m、幅0.21～0.52m、確認面から最大深さ0.17mを測る。遺物包含層下の10層上面で検出し、黒色粘質土が堆積する。

出土遺物の総量は121.6gである。高杯や白色精製小型壺の破片が出土しているがいずれも小破片のため図化していない。

出土遺物から、遺構の時期は古墳時代前期と推定される。

2 土坑

【S K 1】

調査区中央に位置する。円形で規模は直径1.2m、深さ0.32mを測る。重機掘削時基本層序8層上面で検出したがそれより上層から掘り込んでいたと考えられる。1層に黒褐色シルト、2層に褐灰色粘質土が堆積する。遺物はすべて1層から出土した。

出土遺物の総量は128.6gである。1は内面に黒色処理を行っている杯で底部が欠損している。2は土師器の杯で底部に回転糸切り痕が残る。3は土師器の碗である。

出土遺物から、遺構の時期は平安時代、11世紀と推定される。

【S K 2】

調査区南に位置する。梢円形で規模は長径1.4×短径1.1m、深さ0.3mを測る。10層上面で検出し、上層に褐灰色粘質土、下層に黒色粘質土が堆積する。出土土器の総量は579.5gである。4は口縁に段を設ける壺である。5・6は頸部が「く」字に屈曲する壺である。

出土遺物から、遺構の時期は古墳時代前期と推定される。

【S K 3】

調査区南に位置する。円形で規模は直径0.6m、深さ0.19mを測る。10層上面で検出し、上層に褐灰色粘質土、下層に黒褐色粘質土が堆積する。出土遺物の総量は15.7gである。小破片のため図化していない。

出土遺物から、遺構の時期は古墳時代前期と推定される。

3 小穴

【S P 1～5】

調査区中央から南に位置する。円形で規模は直径0.23～0.30m、深さ0.06～0.2mを測る。10層上面で検出し、黒色粘質土が堆積する。出土遺物はない。

S P 2・3・5はS D 1と平行して並び、何らかの関連があるとみる。またS Pの覆土がS D 1と同じことか

ら遺構の時期は古墳時代前期と推定される。

4 その他

【包含層・検出面・壁】

出土遺物は包含層 800g・検出面 181.8g、壁 26.9g である。このうち図化した 4 点は包含層から出土した土師器で、7 は壺の口縁部である。8 は壺の底部であり、底面中央に凹みがある。9 は高杯の杯～脚部で脚部に透かし孔が 3ヶ所確認できる。10 は器台の器受部である。外・内面に赤彩が残り、中位に円形の透かし孔が 3ヶ所確認できるが、小破片のため総数は不明である。

表 1 遺構一覧表

遺構名	時期	平面形態	規模 (m)			土器重量 (g)
S D 1	古墳時代前期		全長 4.66 幅 0.21 ~ 0.52			121.6
S K 1	平安時代	円形	直径 1.2			128.6
S K 2	古墳時代前期	梢円形	長径 1.40 × 短径 1.10			579.5
S K 3	古墳時代前期	円形	径 0.60			15.7
S P 1	古墳時代前期	円形	径 0.30			0
S P 2	古墳時代前期	円形	径 0.24			0
S P 3	古墳時代前期	円形	径 0.24			0
S P 4	古墳時代前期	円形	径 0.24			0
S P 5	古墳時代前期	円形	径 0.23			0
検出面						181.8
壁						26.9
包含層						800.0
						計 1854.1

表 2 遺物觀察表

図版 番号	出土遺構		種別	器種	残存		寸法 (cm)			成形・調整		備考
	遺構名	層位			部位	遺存	口径	底径	器高	外面	内面	
1	S K 1	1 層	土師器	杯	口縁～体部	1/3	10.2			ロクロナデ	ロクロナデ 黒色 ミガキ	
2	S K 1	1 层	土師器	杯	全形	1/2	10.4	3.8	3.2	ロクロナデ 回転系切	ロクロナデ	
3	S K 1	1 層	土師器	椀	底部	7/8		7.5		ロクロナデ	ロクロナデ	
4	S K 2	2 層	土師器	壺	口縁	1/3	22.0			ミガキ	ミガキ ハケ	
5	S K 2	1・2 層	土師器	甕	口縁～胴上	1/5	14.2			ナデ ケズリ	摩耗不明	
6	S K 2	2 層	土師器	甕	口縁～胴上	1/5	14.0			ナデ ハケ	ナデ	
7	包含層		土師器	壺	口縁	1/4	18.4			ミガキ	ミガキ	
8	包含層		土師器	壺	底部	1/2				ミガキ	ナデ	
9	包含層		土師器	高杯	杯～脚					ミガキ	ナデ ミガキ	脚部孔 3ヶ所
10	包含層		土師器	器台	器受部					ミガキ 赤彩	ミガキ 赤彩	受部多孔

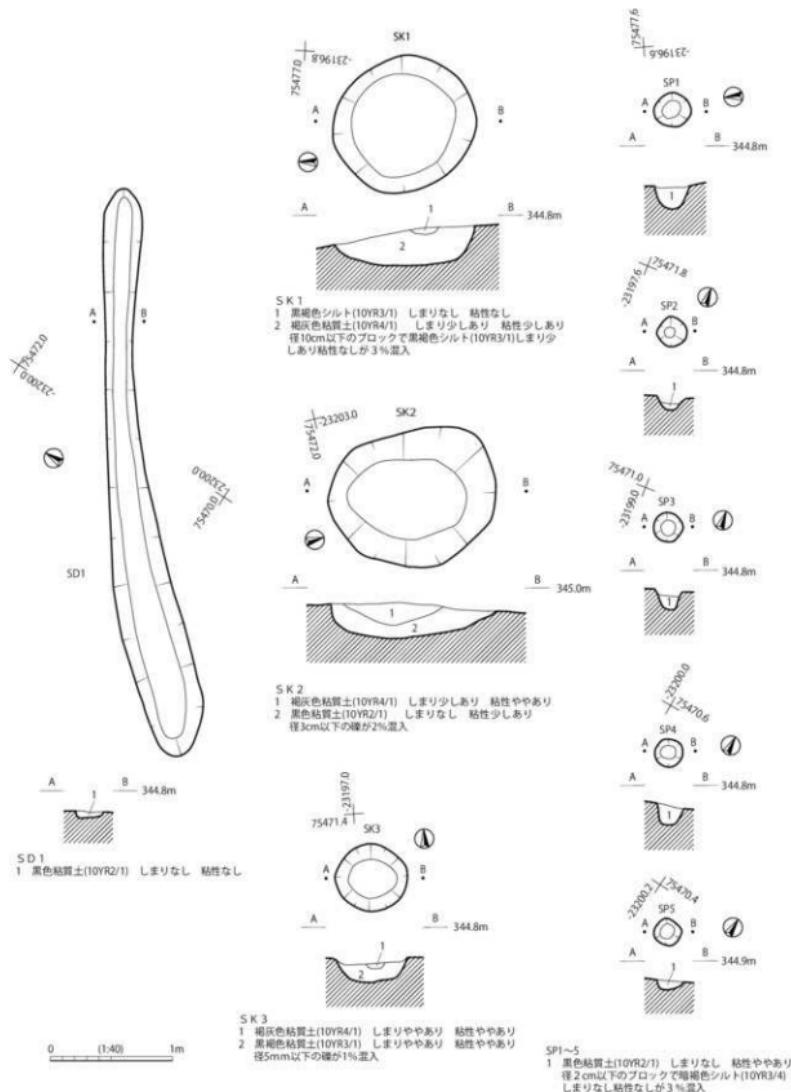


図9 遺構実測図

SK 1



1

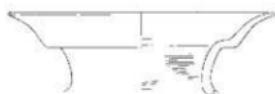


2

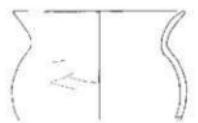


3

SK 2



4



5



6

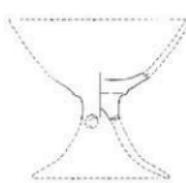
包含层



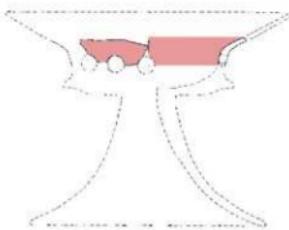
7



8



9



10

0 (1:4) 10cm

图 10 遗物实测图

第4章　まとめ

今回の調査では、古墳時代前期および平安時代の遺構と遺物を確認した。次に各時代の様相に関して考察する。古墳時代前期の溝跡1条、土坑2基、小穴5基を検出した。調査地は検出面において南西から北西方向に傾斜しており、南西側が微高地、北東側が低地であったと考えられる。遺構は調査区南半に集中し、北半では遺構および遺物はまったく確認できなかった。このことから遺構は調査区南側の微高地縁辺に分布することが推定される。これまでの調査では調査地東側に位置する駒沢城跡の3面で古墳時代前期の溝跡・小穴が見つかっているだけで、調査区周辺ではこの時代の集落域などは見つかっていない。本調査でも駒沢城跡と同様に溝跡や小穴が見つかっている。遺構の性格を判断するのは難しいが、関連を検討する有用な資料であると考えられる。

平安時代の土坑1基を検出した。調査地の北東側ではこの時期に低地が埋没しており現在に近い西から東方向に下る緩やかな地形が形成されていたと考えられる。これまでの調査で調査地西側に平安時代集落域が確認されており、今回の調査区は集落域の縁辺部であった可能性が考えられる。

引用・参考文献

- 長野市教育委員会・長野市遺跡調査会 1981『湯谷古墳群 兵孔山古墳群 駒沢新町遺跡』長野市の埋蔵文化財第10集
並沢浩 1982『駒沢新町遺跡』『長野県史』考古資料編 全1巻(2) 主要遺跡(北・東信)長野県史刊行会
長野県史刊行会 1982『長野県史 考古資料編 全1巻(2) 主要遺跡(北・東信)』
長野市教育委員会・長野市道路調査会 1984『石川条里的遺構 上駒沢遺跡』長野市の埋蔵文化財第14集
長野市教育委員会・長野市道路調査会 1985『石川条里的遺構(3)(付・上駒沢遺跡)』長野市の埋蔵文化財第16集
長野市教育委員会 1999『浅川扇状地遺跡群 駒沢新町遺跡II』長野市の埋蔵文化財第55集
長野市教育委員会 1996『浅川扇状地遺跡群 駒沢城跡 小島柳原遺跡群 中保遺跡III』長野市の埋蔵文化財第76集
長野県教育委員会 1998『北陸新幹線埋蔵文化財免振調査報告書5-長野市内その2』
前島卓 2003『駒沢新町遺跡』『長野市誌』第12巻 資料編 原始・古代・中世 長野市
長野市教育委員会 2003『石川条里遺跡(11) 浅川扇状地遺跡群 本村東沖遺跡(3) 上長畠遺跡』長野市の埋蔵文化財第126集
長野市教育委員会 2010『浅川扇状地遺跡群 吉田町東遺跡(3) 駒沢新町遺跡(3)』長野市の埋蔵文化財第126集
長野市教育委員会 2011『安茂里遺跡群 大門遺跡 浅川扇状地遺跡群 駒沢城跡(2)』長野市の埋蔵文化財第127集

遺構写真図版 1



調査区北半全景（南西から）



調査区南半全景（南から）

遺構写真図版 2



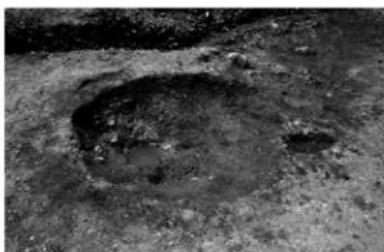
S D 1・S P 3～5 完掘（東から）



S K 1・S P 1 完掘（南から）



S K 1 断面（西から）



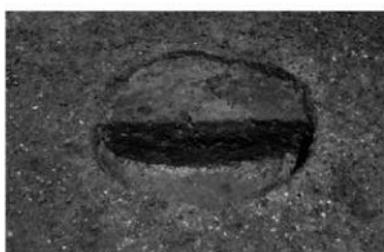
S K 2 完掘（東から）



S K 2 断面（東から）



S K 3・S P 2 完掘（南から）



S K 3 断面（南から）



駒沢祭紀遺跡

遺物写真図版



1



2



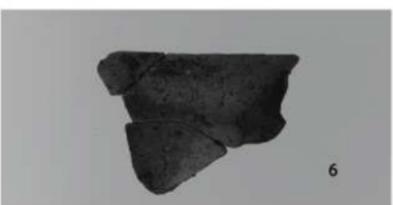
3



4



5



6



7



8



9



10

報告書抄録

ふりがな	あさかわせんじょううちいせきぐん こまざわあらまちいせき 4
書名	浅川扇状地遺跡群 駒沢新町遺跡（4）
副書名	（仮称）エスティスト上駒沢宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財
シリーズ番号	第 169 集
編著者名	鈴木時夫
編集機関	長野市教育委員会 文化財課 埋蔵文化財センター
所在地	〒 381-2212 長野県長野市小島田町 1414 番地 TEL 026-284-0004・FAX 026-284-0106
発行年月日	2023（令和5）年2月27日

長野市の埋蔵文化財第169集

浅川扇状地遺跡群

駒沢新町遺跡（4）

令和5年2月27日 発行

発行 長野市教育委員会

編集 文化財課 埋蔵文化財センター

印刷 社会福祉法人ながのコロニー

長野福祉工場